

## 澁澤龍彦の「蔵書目録」について(2)

跡上 史郎

### 一 憶測と事実

前回、山下武「ドッペルゲンガー文学考第十二回●澁澤龍彦」(『幻想文学』第四八号、一九九六・一〇)における澁澤龍彦への非難を扱った。山下によれば、澁澤「鏡と影について」は、ジョバンニ・パピーニ「泉水のなかの二つの顔」の盗作で、「澁澤龍彦は仏訳か英訳でパピーニの原作を読んだのだろうか、パピーニが日本ではほとんど読まれていないところから、剽窃してもネタが割れないと多寡を括ったのではあるまいか」とする。このような発想は、ある種のパターンを形作っている。例えば、浅田彰は、「澁澤龍彦というのがたかだか高度成長期までの文学者だったということだ。(中略)ヨーロッパがまだまだ遠く、洋書を手に入れるのも難しかったから、あの程度でも素人は幻惑できた」(浅田彰・島田雅彦『天使が通る』新潮社、一九八八・一一)と言っており、現在でも千坂恭二が「澁澤そのものはバツタだろう。彼のエッセイの多くは、フランス書からの摘み食いではなく」とtweetしている(二〇二二年八月二八日 [https://twitter.com/Chisaka\\_Kyoji/status/1563770712996737024](https://twitter.com/Chisaka_Kyoji/status/1563770712996737024))。

確かに澁澤は翻訳されていない仏語の書物を下敷きに自作を書いている。しかし、翻訳されている仏語文献を下敷きに自作を書いている。例えば、「マドンナの真珠」(『三田文学』一九五九・七)は、ピエール・マッコルラン「薔薇王」を下敷きにしてしている部分があるが、『蔵書目録』中のマッコルランの原書を調査してみても該当するものが見当たらない。劉佳寧の研究により、フランス文学アンソロジー

02-09-26 仏蘭西の華、井上勇訳、聚英閣、1927

に収録された井上勇訳「薔薇王」こそが、「マドンナの真珠」の材源であることが明らかになった<sup>1)</sup>が、これは未訳だから「剽窃してもネタが割れないと多寡を括った」と言うには無理があるケースである。評者たちは、澁澤がフラン

ス文学者であったことから、憶測を逞しくして、澁澤は日本人があまり読んでいない未訳のフランス書からこそ剽窃したのだと決め打ちしているが、実際には澁澤は、これから検討するように、誰でも手に入るような文庫本からも正々堂々と剽窃(?)しており、逃げも隠れもしていない。澁澤は、翻訳がなければ、得意とは言えない英語の本も用いるし、訓点がついていけば漢文も下敷きに使う。特に「ネタが割れ」ないから剽窃する、「ネタが割れ」るから剽窃を避けるといったような見ではなさそうである。ただ、自分が求める情報が書いてあって、自分の本の材料に使えるのであれば、洋書だろうが日本語の書物だろうが、稀覯本だろうが文庫本だろうが何でも良いらしいのだ。

### 二 『夢の宇宙誌』の「参考文献」

初期の代表作『夢の宇宙誌』(美術出版社、一九六四・六)は、澁澤の著作全編を見渡してみても異質で、この著作においてだけ、「参考文献」の一覧が示されている。以下に掲げるが、「↓」によって『蔵書目録』との対応関係を示すこととする。

- ① QUÉANT, L'ABBÉ: *Gerbert ou Sylvestre II et le siècle de fer*, Paris 1868.  
→★07-04-03 *Gerbert ou Sylvestre II, Quéant(L'abbé), Joseph Albanet, 1868*
- ② SELIGMANN, KURT: *Le Miroir de la Magie*, Paris 1956.  
→★32-06-28 *Le miroir de la Magie : histoire de la magie dans le monde occidental, Seligmann(Kurt), Fasquelle, 1956*
- ③ HOCKE, GUSTAV RENÉ: *Die Welt als Labyrinth, Manierismus, t. I.*, Hamburg 1957.  
→『蔵書目録』になし。
- ④ CHAPUIS, ALFRED and DROZ, EDMOND: *Automata, A Historical and Technological Study*, Neuchâtel 1958.  
→32-06-23 *Automata : a historical and technological study, Chapuis(Alfred) + Droz(Edmond), Griffon, 1958*
- ⑤ DEVAUX, PIERRE: *Automates, Automatism, Automation*, Paris 1960.  
→02-03-78 *Automates automatisme automation, Devaux(Pierre), «Que sais-*

- je ? », PUF, 1960
- ⑨ CHAPUIS, ALFRED: *Les Automates dans les œuvres d'imagination*, Neuchâtel 1947.  
→★08-03-49 **Les automates dans les œuvres d'imagination**, Chapuis(Alfred), Neuchâtel, 1947
- ⑩ LEGRAND et SLUYS: *Arcimboldo et les arcimboldesques*, Paris 1955.  
→★33-06-27 **Arcimboldo et les arcimboldesques**, Legrand + Sluys, Nef de Paris, 1955
- ⑪ BRION, MARCEL: *Art fantastique*, Paris 1961.  
→★08-04-33 **Art fantastique**, Brion(Marcel), Albin Michel, 1961
- ⑫ RUYER, RAYMOND: *L'Utopie et les utopies*, Paris 1950.  
→★09-02-38 **L'utopie et les utopies**, Ruyer(Raymond), PUF, 1950
- ⑬ BATAILLE, GEORGES: *Les larmes d'Éros*, Paris 1961.  
→09-03-46 **Les larmes d'Éros : bibliothèque internationale d'érotologie**, Bataille(Georges), Pauvert, 1961
- ⑭ DUMAS, FRANÇOIS RIBADEAU: *Histoire de la Magie*, Paris.  
→★09-03-58 **Histoire de la magie**, Dumas(François Ribadeau), préface de Robert Kaners
- ⑮ ALLENDY, RENÉ: *Paracelse, le Medecin maudit*, Paris 1937.  
→『怪神口遊』 じふろ。
- ⑯ ROSTAND, JEAN: *Bestiaire d'Amour*, Paris 1958.  
→09-01-11 **Bestiaire d'amour**, Rostand(Jean), Robert Laffont, 1958
- ⑰ HUTIN, SERGE: *L'Alchimie*, Paris 1951.  
→★02-03-124 **L'alchimie**, Hutin(Serge), « Que sais-je ? », PUF, 1951
- ⑱ ALLEAU, RENÉ: *Aspects de l'Alchimie traditionnelle*, Paris 1953.  
→09-02-33 **Aspects de l'alchimie traditionnelle**, Alleau(René), préface de Eugène Canseliet, Minuit, 1953
- ⑲ CARON, M. et HUTIN, S.: *Les Alchimistes*, Paris 1959.  
→★08-03-08 **Les alchimistes**, Caron(M.) + Hutin(S.), Seuil, 1959
- ⑳ LE GOFF, JACQUES: *Les intellectuels au moyen âge*, Paris 1962.  
→08-03-05 **Les intellectuels au Moyen Âge**, Le Goff(Jacques), Seuil, 1962
- ㉑ BALTRUŠAITIS, JURGIS: *Le Moyen Âge fantastique*, Antiquités et exotismes dans l'art gothique, Paris 1955.  
→★33-06-22 **Le Moyen Âge fantastique**, Baltrušaitis(Jurgis), Armand Colin, 1955
- ㉒ BALTRUŠAITIS, JURGIS: *Réveils et Prodiges, Le gothique fantastique*, Paris 1960.  
→★33-06-20 **Réveils et prodiges : le gothique fantastique**, Baltrušaitis(Jurgis), Armand Colin, 1960
- ㉓ FOURNIVAL, RICHARD DE: *Le Bestiaire d'Amour, suivi de la Réponse de la Dame*, Paris 1859.  
→★08-04-19 **Le bestiaire d'amour**, Fournival(Richard de), Auguste Herissey, 1860
- ㉔ BOAISTUAU, PIERRE: *Histoires prodigieuses*, édition préfacée par Yves Florenne, Paris 1961.  
→★08-04-17 **Histoires prodigieuses**, Boaittau, Club français du livre, 1961
- ㉕ BACHELARD, GASTON: *La poétique de l'espace*, Paris 1958.  
→★09-02-35 **La poétique de l'espace**, Bachelard(Gaston), PUF, 1958
- ㉖ VILLETTE, JEANNE: *L'Ange dans l'art d'occident du XI<sup>ème</sup> au XV<sup>ème</sup> siècle*, Paris 1940.  
→★33-06-26 **L'ange dans l'art d'occident**, Villette(Jeanne), Henri Laurens, 1940
- ㉗ CORDIER, PIERRE-MARIE: *Jean Pic de la Mirandole ou la plus pure figure de l'humanisme chrétien*, Paris 1957.  
→★07-03-59 **Jean Pic de la Mirandole ou la plus pure figure de l'humanisme chrétien**, Cordier(Chanoine Pierre-Marie), Deresse, 1957
- ㉘ ELIADE, MIRCEA: *Méphisophèles et l'Androgyné*, Paris 1962.  
→★09-03-11 **Méphisophèles et l'androgyné**, Eliade(Mircea), Gallimard, 1962
- ㉙ LILAR, SUZANNE: *Le Couple*, Paris 1963.  
→★09-03-23 **Le couple**, Lilar(Suzanne), Bernard Grasset, 1963
- ㉚ PRAZ, MARIO: *The Romantic Agony*, London 1954.

- ★08-02-21 **The romantic agony**, *Prax(Mario)*, trad. de Angus Davidson, Oxford university press, 1954
- ②8 EVOLA, J.: *Métaphysique du sexe*, Paris 1959.  
→★09-02-50 **Métaphysique du sexe**, *Evola(J)*, Payot, 1959
- ②9 JUNG, C.G.: *Psychologie und Alchemie*, Zürich 1944.  
→『蔵書目録』になし。
- ③0 GORDON, PIERRE: *L'Image du monde dans l'antiquité*, Paris 1949.  
→09-02-28 **L'Image du monde dans l'antiquité**, *Gordon(Pierre)*, PUF, 1949
- ③1 VULLIAUD, PAUL: *La Fin du monde*, Paris 1952.  
→★09-02-27 **La fin du monde**, *Vulliaud(Paul)*, préface de Mircea Eliade, Payot, 1952
- ③2 GHISONI, PAUL: *Eschatologie infernale*, Paris 1962.  
→09-02-20 **Eschatologie infernale**, *Ghisoni(Paul)*, Colombe, 1962
- ③3 COHN, NORMAN: *Les fanatiques de l'Apocalypse. pseudo-messies prophètes et illuminés du moyen âge*, Paris 1962.  
→09-02-29 **Les fanatiques de l'apocalypse**, *Cohn(Norman)*, trad. de Simone Clémendot, Lettres nouvelles, 1962
- ③4 MÂLE, ÉMILE: *L'Art religieux du XII<sup>ème</sup> siècle en France. Étude sur les origines de l'icongraphie du moyen âge*, Paris 1953.  
→★33-06-21 **L'art religieux du XII<sup>e</sup> siècle en France**, *Mâle(Émile)*, Armand Colin, 1953
- ③5 FOCILLON, HENRI: *L'An Mil*, Paris 1952.  
→★08-05-35 **L'an mil**, *Focillon(Henri)*, Armand Colin, 1952
- ③6 BRETON, ANDRÉ et LEGRAND, GÉRARD: *L'Art magique*, Paris 1957.  
→★32-06-16 **L'art magique**, *Breton(André)*, Club français de l'art, 1957
- ③7 DUCA, LO: *Histoire de l'Érotisme*, Paris 1959.  
→『蔵書目録』になし。
- ③8 VILLENEUVE, ROLAND: *Satan parmi nous*, Paris 1961.  
→★08-03-27 **Satan parmi nous**, *Villeneuve(Roland)*, Palatine, 1961
- ③9 ウッドクロフト編、平田寛訳『古代人の発明、ヘロンの気体装置』 創元社、昭和二十四年
- ★12-08-29 古代人の発明、ウッドクロフト、平田寛訳、創元社、1949
- ④0 ボールトン、富成喜馬平訳『時と時計』 河出書房、昭和十七年  
→★32-01-26 時と時計、ボールトン、富成喜馬平訳、河出書房、1942
- ④1 ブルクハルト、村松恒一郎訳『伊太利文芸復興期の文化』 岩波書店、昭和二十九年  
→★03-02-09 伊太利文芸復興期の文化①②、ブルクハルト、村松恒一郎訳、岩波文庫、1954
- ④2 V・L・タピエ、高階秀爾・坂本満訳『バロック芸術』 白水社、昭和二十七年  
→★02-03-68 バロック芸術、タピエ(ヴィクトール・リュシアン)、高階秀爾他訳、文庫クセジュ、白水社、1962
- ④3 ホイジンガ、兼岩正夫・里見元一郎訳『中世の秋』 創文社、昭和三十三年  
→★12-05-11 中世の秋、ホイジンガ、兼岩正夫他訳、名著翻譯叢書、創元社、1958
- ④4 ホイジンガ、高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス』 中央公論社、昭和三十八年  
→★12-05-10 ホモ・ルーデンス―人類文化と遊戯、ホイジンガ、高橋英夫訳、中央公論社、1963
- ④5 ハイベルク、平田寛訳『古代科学』 創元社、昭和十五年  
→12-08-26 古代科学、ハイベルク、平田寛訳、創元科学叢書、創元社、1940
- ④6 スヴェドベリ、田中実訳『物質観の歴史』 白水社、昭和二十一年  
→12-08-02 物質観の歴史―化学史を中心として、スヴェドベリ、田中実訳、科学選書、白水社、1946
- ④7 トインビー、秀村欣二・清永昭次訳『ヘレニズム』 紀伊國屋書店、昭和三十六年  
→12-03-31 ヘレニズム―一つの文明の歴史、トインビー(A・J)、秀村欣二他訳、紀伊國屋書店、1961
- ④8 ニーグレン、岸千年・大内弘助訳『アガペーとエロース』 新教出版社、昭和二十九、三十、三十八年  
→『蔵書目録』になし。
- ④9 ソーニエ、武島栄三・高田勇訳『中世フランス文学』 白水社、昭和三十三年

年

- 02-03-41 中世フランス文学、ソーニエ(V・L)、武島栄三他訳、文庫クセジュ、白水社、1958
- ⑤0 ベディエ、アザアル共編、辰野・鈴木監修『中世文学』I、II 創元社、昭和十七年
- 02-04-01 フランス文学史①③、ベディエ+アザアル、杉捷夫他訳、創元社、1942
- ⑤1 エリアーデ、堀一郎訳『永遠回帰の神話』未来社、昭和三十八年
- ★12-04-42 永遠回帰の神話―祖型と反復、エリアーデ、堀一郎訳、未来社、1963
- ⑤2 フロイド、井村恒郎訳『自我論』日本教文社、昭和二十九年
- ★12-02-42 フロイド選集④自我論、フロイド、井村恒郎訳、日本教文社、1963
- ⑤3 フロイド、懸田克躬訳『性欲論』日本教文社、昭和二十八年
- ★12-02-43 フロイド選集⑤性欲論、フロイド、懸田克躬訳、日本教文社、1963
- ⑤4 シンガー、山田坂仁訳『魔法から科学へ』北隆館、昭和二十六年
- 12-05-21 魔法から科学へ、シンガー(チャールズ)、山田坂仁訳、北隆館、1951
- ⑤5 ブルトマン、中川秀恭訳『歴史と終末論』岩波書店、昭和三十四年
- ★12-03-11 歴史と終末論、ブルトマン(R・K)、中川秀恭訳、岩波現代叢書、岩波書店、1961
- ⑤6 ギボン、村山勇三訳『ローマ帝国衰亡史』全十冊 岩波書店
- 03-02-11 ローマ帝国衰亡史⑨、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1960
- 03-02-12 ローマ帝国衰亡史⑦、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1960
- ★03-02-13 ローマ帝国衰亡史⑤、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1960
- 03-02-14 ローマ帝国衰亡史④、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1961
- 03-02-15 ローマ帝国衰亡史③、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1961
- 03-02-16 ローマ帝国衰亡史①、ギボン、村山勇三訳、岩波文庫、1957
- ⑤7 ルージュモン、鈴木健郎・川村克己訳『愛について』岩波書店、昭和三十四年
- 『蔵書目録』になし。
- ⑤8 ラッセル、市井三郎訳『西洋哲学史』第二巻 みすず書房、昭和三十年
- 『蔵書目録』になし。
- ⑤9 杉田六一『ユダヤ史研究余談』教文館、昭和三十七年
- 12-07-14 ユダヤ史研究余談、杉田六一、教文館、1962
- ⑥0 山田徳兵衛『人形芸術』創元社、昭和三十五年
- 11-03-04 人形芸術、山田徳兵衛、創元社、1960
- 以上全六〇件中、仏語文献三四件、英語文献二件、独語文献二件、日本語文献二二件(そのうち翻訳二〇件)である。
- 三 検討事項
- 『夢の宇宙誌』巻末「参考文献」に挙がっている書物は、おおむね『蔵書目録』に記載されているものと一致しているが、いくつか検討しておくべき事項を確認しておく。
- ①は、一九世紀の洋書であるが、澁澤はこのような一八〇〇年代に刊行された仏語の書物を一〇冊程度所持している。『蔵書目録』中の最も古い書物は、洋書、和書ともにせいぜい一八世紀までの
- 04-06-15 L'arretin, à Rome, 1763
- 17-04-26 往生要集 1790
- である。特に澁澤に古い稀覯書を蒐集する趣味があったわけではなく、①もそこに書かれてある情報が必要だったため入手したものであろう。
- ②については、同書の抄訳
- ★12-04-07 魔法―その歴史と正体、セリグマン(K)、世界教養全集②、平凡社、1961
- にも澁澤は書き込みをしており、『夢の宇宙誌』執筆時点で参照していた可能性は非常に高<sup>②</sup>。
- ③については、『蔵書目録』に以下の仏訳がある。
- 07-01-23 Labyrinth de l'art fantastique, Hocke(Gustav René), trad. de Cornelius Heim, Gonthier, 1957

しかし、原書である独語版が一九五七年の発行なので、同年に仏訳が出るというのは考えにくい。フランス国立図書館 (<https://catalogue.bnf.fr/index.do>) のデータベースで確認できるのは、同タイトル、同訳者、同出版社の一九六七年版のみである。現物を確認すると、

◎ 1957 by Rowohlt Verlag, Hambourg. / Photographies Rowohlt Verlag, Hambourg. / © 1967 by Société nouvelle des Éditions Gonthier, Paris. / pour l'édition française.

となっており、前段のみ注目したことによる『蔵書目録』の誤記の可能性がある。なお、『蔵書目録』中の邦訳は、以下の二冊である。

★12-06-11 迷宮としての世界—マニエリスム美術、ホッケ (グスタフ・ルネ)、種村季弘他訳、美術出版社、1966

34-01-40 迷宮としての世界—マニエリスム美術、ホッケ (G・R)、種村季弘他訳、美術出版社、1968

同書籍に記された三島由紀夫の推薦文も有名な邦訳は、仏訳よりも早く、また仏訳の図版は充実しているとは言えず、後の澁澤の著作においても『迷宮としての世界』仏訳を参照する動機は見出しにくい。

⑩については、後の版も重複して所有している。

09-03-43 *Les larmes d'éros, Baraille(Georges), Pauvert, 1971*

⑫⑬は借りて参照した後返却したか、もともと持っていたものを手放したか、後に他人に貸したものが返却されなかったかのいずれかと思われる。このような場合、澁澤は後の版を入手する傾向がある(後述)が、これらのケースにおいては失われたままである。

⑳㉑㉒㉓㉔については、実際に澁澤が所有していたのは重版と推定されるが、巻末参考文献では初版の発行年が記載されている。

㉕については、『夢の宇宙誌』刊行前に邦訳

★12-04-42 永遠回帰の神話—祖型と反復、エリアーデ、堀一郎訳、未来社、1963

が出ており、澁澤は書き込みをしているが、初出の多くは一九六二年であり、基本的には原書に基づいているものと考えるべきであろう。

㉖については、後の仏訳と邦訳

07-01-06 *Psychologie et alchimie, Jung(C. G.), trad. de Henry Pernet,*

Bucher/Chastel, 1970

☆01-06-05 心理学と錬金術①②、ユング、池田絃一他訳、人文書院、1976  
が『蔵書目録』中に認められるが、『夢の宇宙誌』よりも後のものである。そもそも澁澤が独語文献をどの程度読みこなすことができたのか、ほとんど情報がなく<sup>(3)</sup>、実際にどの程度活用していたのかわからないが、ユングの原書は一冊だけ『蔵書目録』に記載されている。

04-04-04 *Bevusstes und Unbevusstes, Jung(C. G.), Fischer, 1963*

澁澤が得意とは考えにくい独語の書物からユングに関する情報を得ようとしていたことそのものは間違いないだろう。一方、ホッケ『迷宮としての世界』共訳者の矢川澄子は、当時の澁澤の配偶者であり、そもそも③㉑は矢川の所有物だったのかもしれない(後に離婚)。

③⑦⑧については、後の版

07-06-12 *Histoire de l'érotisme, Lo Duca, Jeune Parque, 1969*

★12-05-15 愛について—エロスとアガペ、ルージユモン(ドニ・ド)、鈴木健郎他訳、岩波書店、1967

12-08-34 西洋哲学史④、ラッセル(バートランド)、市井三郎訳、みすず書房、1961

が『蔵書目録』中に認められる。先に、使用後に返却、またはなんらかの理由で手元から無くなってしまうというケースについて述べたが、これらの場合は、その後買い直す、あるいは新版を入手すると旧版は手放すといったことをしていたものと推定される。

④⑤は岩波文庫、④⑨は文庫クセジュ(白水社の新書サイズのシリーズ)であり、誰でも気軽に手に取ることのできる極めて一般的なものである。⑤については、『蔵書目録』では「全十冊」のうち、二、八巻が欠けている。なお、ブルクハルトについては、「幼児殺戮者 ジル・ド・レエ侯の肖像 IV」(『寶石』一九六一・一〇)、「黒魔術の手帖」桃源社、一九六一・一〇、「危機と死の弁証法」(『一橋新聞』一九六一・一〇・三〇)、「神聖受胎」現代思潮社、一九六二・三、「マンドラゴラの幻想」(『寶石』一九六二・三)、「毒薬の手帖」桃源社、一九六三・六)に、ギボンについては、「アグリッピナ」(『新婦人』一九六三・八)、「世界悪女物語」桃源社、一九六四・四)にすでに名前が出てきており、それで文庫本を使っていることがただちにわかるわけではないものの、

これら大家の名著を文庫で読んでいた読者であれば、特に澁澤が未訳の洋書から剽窃しているといった解釈はしなかつたであろう。ブルクハルト、ギボンの他にも、澁澤が書き込みをしている文庫本は多数あるが、

01-02-72 モンテクリスト伯①⑦、デュマ（アレクサンドル）、山内義雄訳、岩波文庫、1956

のように書き込みはなくとも大いに活用している事例もある。『夢の宇宙誌』と同時期の『毒菓の手帖』（桃源社、一九六三・六）では、「古代人は知っていた」「血みどろのロオマ宮廷」「毒草園から近代化学へ」（初出『宝石』一九六二・一、二、八）等で、繰り返して『モンテ・クリスト伯』への言及がある。サド侯爵のように牢獄に幽閉されながら、牢獄の中でこそその知性に磨きをかけたエドモン・ダンテスの運命は、澁澤の興味を惹くものであったに違いない。

⑤⑩については『夢の宇宙誌』『参考文献』と、『蔵書目録』で書名が異なるように見えるが、前者は書名副題を示したもので、後者は主題を示したものであり同一版である。『フランス文学史第一巻』が『中世文学Ⅰ』（一九四二）、『フランス文学史第二巻』が『中世文学Ⅱ』（一九四二）で、『フランス文学史第三巻』が『中世末期／文藝復興前期文学』（一九四三）であり、『参考文献』では二巻までが示されたのだ。

基本的に澁澤が参照している洋書は仏語である。③④⑤⑥⑦⑧⑨の独語文献は先に検討したようにどこまで活用できたのかはいまのところわからない。一方、④⑤⑥⑦⑧の英語文献のうち、特に②は、「十八世紀の暗黒小説」（ラクロ・サド『フランス文学全集』第3巻、東京五月社、一九六〇・四、解説↓『神聖受胎』現代思潮社、一九六二・三）の段階ではすでに全面的に援用されており、初期澁澤龍彦にとっての最重要書のひとつと言える。オックスフォード大学出版局から出た第二版第二刷である（FIRST PUBLISHED 1933 / SECOND EDITION 1951 / SECOND IMPRESSION 1954）。澁澤は、後の仏訳

07-03-44 *La chair, la mort et le diable dans la littérature du 19e siècle.*  
Prati(Mario), trad. de Constance Thompson Pasquai, Denoël, 1977

も所持しており、この頃にはすでに彼の関心の中心は他に移っているもの、  
からに邦訳

☆11-04-47 肉体と死と悪魔、プラーツ（マリオ）、倉智恒夫他訳、クラテール叢書、国書刊行会、1986

の出版時には、カバー裏表紙に「サドやユイスマンスやペラダンを追求するための、どれだけ多くのヒントを得てきたことであろう」という推薦の言葉を寄せた。つまり、内容が興味深ければ、英語も苦にせず耽読したのだと考えられる。

以上を総合すると、澁澤にとつては、自作の材源となる書物は、ただ自分が求める情報、興味深い情報が書いてあれば、仏語だろうが、日本語だろうが、英語だろうが、独語だろうが、よく読めようが、あまり読めまいが、稀覯の古書だろうが、そのへんの文庫本だろうが、何でもよかつたのである。未訳の洋書だから「ネタが割れ」ないとか、翻訳されているから「ネタが割れ」るとか、そのようなささいな見も持っていなかつたのである。

（つづく）

〔付記〕前回注（11）の「河島英昭」を「土岐恒二（シリーズ全巻のボルヘス序文を担当）」に訂正する。情報をお寄せいただいた磯崎純一氏に感謝の意を表する。本稿は科研費2K00343の成果の一部である。

- (1) 劉佳寧「幽霊船の東西——澁澤龍彦「マドンナの真珠」とピエール・マッコラ  
ン「薔薇王」——」（第一回澁澤龍彦研究会、二〇二一年五月二九日、オンライン）  
における研究発表がもとになって判明した。これが機縁となり、ピエール・マッ  
コラン「北の橋の舞踏会・世界を駆けるヴァイナス マッコラン・コレクション  
ン2」（太田浩一・平岡敦・永田千奈訳、国書刊行会、二〇二二・七）に「薔薇王  
（永田千奈訳）が収録された。その後、劉の研究発表は「幽霊船の東西——ピエ  
ール・マッコラン「薔薇王」と澁澤龍彦「マドンナの真珠」」（『跨境 日本文学  
研究』一四・二〇二二・六）として論文化されている。
- (2) すでに『黒魔術の手帖』（桃源社、一九六一・一〇）の段階で参考文献として使用  
可能であったことを種村季弘が指摘している（『澁澤龍彦全集』2、河出書房新社、  
一九九三・二、解説）。
- (3) 旧制浦和高時代の外国語は、英独の組み合わせを履修していたので、ある程度独  
語が読めたことは間違いない。なお、英語文献の翻訳に際して、仏訳と独訳を参  
照してはいたケースについては前回を参照。